

課題 6

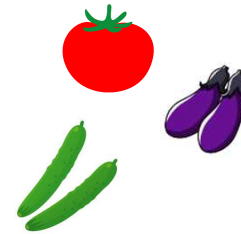
選果場を核とした野菜産地の強化

計画年度：令和3年度～令和5年度

中部農業事務所伊勢崎地区農業指導センター

管内の概要

- 伊勢崎市、玉村町の1市1町
- 管内のJAは1つ（JA佐波伊勢崎）
- 米麦と野菜の複合経営
- 野菜は施設と露地の組み合わせで周年生産
- 農業産出額の65%が野菜



JA販売高順位

1位	キュウリ
2位	ナス
3位	ホウレンソウ
4位	トマト

JA佐波伊勢崎(黄色:選果場整備有)

管内の農業の背景

生産者の高齢化、新規就農者の減少等



JA佐波伊勢崎 なす・きゅうり選果場

「出荷調整作業の分業化」と「産地の縮小や弱体化が懸念」

➡ **H29.3.30 JA佐波伊勢崎なす・きゅうり選果場 稼働**

※ 管内の概要、選果場建設の経緯等については補助資料参照

【参考:普及計画の主な活動目的の変化】

平成27年度～平成29年度 選果場建設と稼働に向けた支援

平成30年度～令和2年度 選果場が軌道にのり、生産振興に向けた支援

1. 課題設定の背景及び理由

【産地の現状と抱える問題点】

- 「主力品目(ナス・キュウリ・トマト)は選果場」が整備
- 高齢化等による「担い手不足」は将来的に不安
- 新たな「担い手の育成」や「早期の技術習得」
- 選果場を活用した「規模拡大や新技術の導入」
- 生産量の減少や品質低下の原因 「病害虫への対応」



【普及活動(計画)の目的】

選果場を核にした産地の維持発展を目指す

➡ 担い手対策、安定した収量・品質の確保

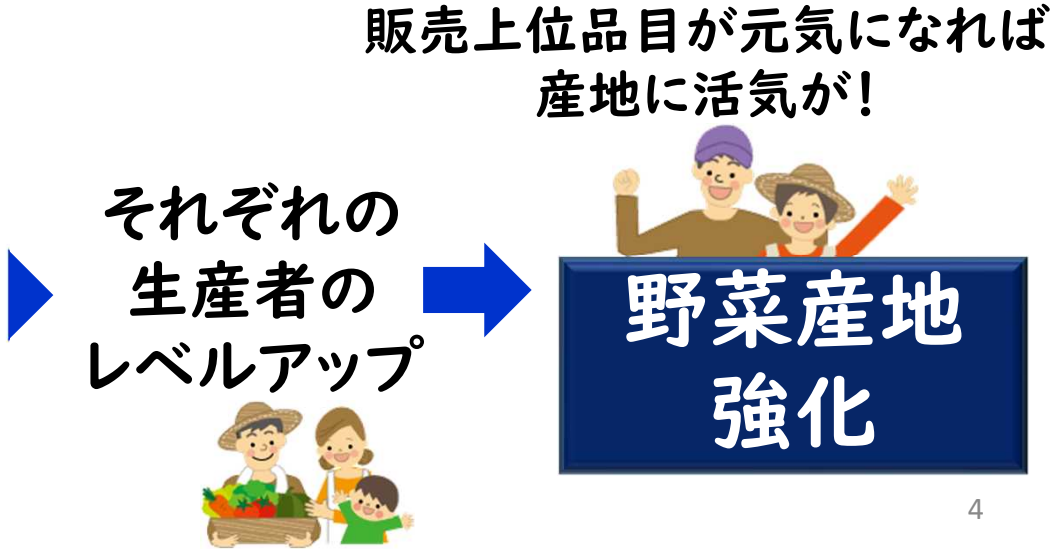


2. 支援事項と解決手法

【支援事項】

- (1) 計画的な産地展開 → 関係者の共通認識の醸成
- (2) 生産拡大の推進 → 担い手対策
- (3) 新たな生産技術等を活用した収量、品質向上
→ 技術対策（新品種・新技術・病害虫対策等）

〈普及計画の3本柱〉



3. 到達目標(目標年次の姿)

目 標	R 2 現状	R 3 目標	R 4 目標	R 5 目標
産地ビジョンの改訂	3	1	2	3
選果場利用者数(人)※1	2 8 9	2 9 1	2 9 2	2 9 4
選果場取扱量(t)※2	8, 1 8 0	8, 2 1 0	8, 2 4 0	8, 3 7 0

※1 なす・きゅうり選果場利用者数 ※2 選果場(3品目)

〈目標設定の考え方〉

- ・ プロジェクト会議等で関係機関との合意形成を図り、時代の流れに即した「**産地ビジョン**」を改訂することで生産振興が円滑にできる
- ・ 新規就農者等に露地ナスなどを生産振興すると、**選果場の利用者が増加**
- ・ 「栽培講習会」や「病害虫対策」の指導により、収量・品質の向上につながり、**選果場の取扱量増える。**

4. 活動経過及び結果

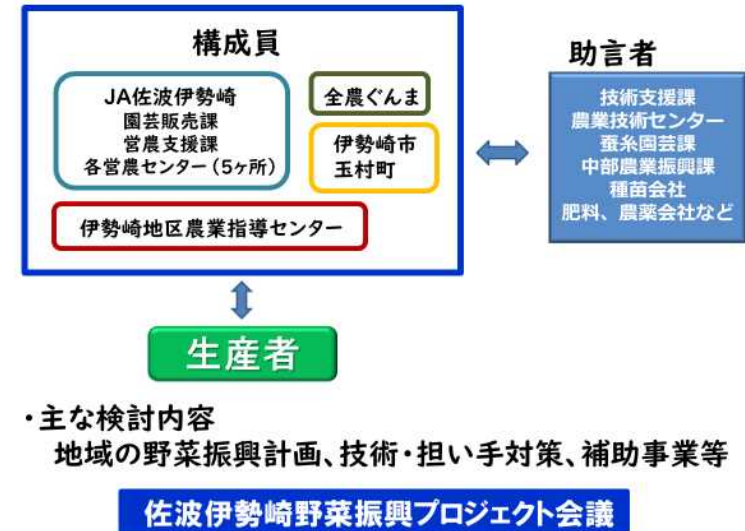
(1) 計画的な産地展開

活動経過

野菜振興プロジェクト会議

目標 4回/年

結果 開催回数 **4回開催**



「単為結果性ナス現地研修会の開催」等の活動につながる

指導機関が地域の生産振興についての認識を共有
現場の声を聞き、アイデアを実践
「とりあえずやってみる事が重要」



(1) 計画的な産地展開

活動経過

産地ビジョンの改訂

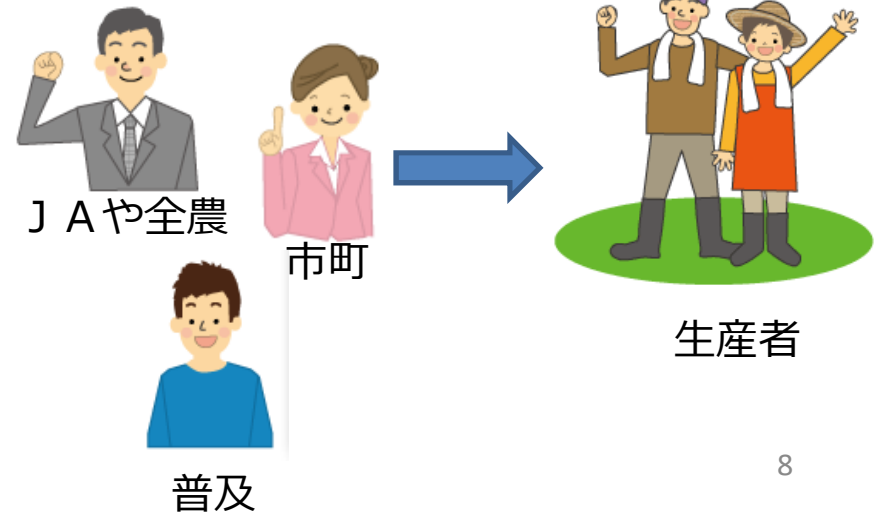
目標 ナス産地ビジョン改訂 → コロナに対応「書面検討」

結果

ナスビジョンを改訂(ver 4)



産地の将来像の共有



改訂した ナス産地ビジョンver4

(1) 計画的な産地展開



活動経過

持続性の高い農業生産方式（エコファーマー※3）の導入計画作成支援

多くのナス・キュウリ生産者が実践している技術を明文化し、第三者(知事)に認定してもらうことで生産者の意識向上、消費者へは「安心・安全」の理解促進、JAは販売戦略につなげる

※3 エコファーマー制度については別紙参照

結果

更新支援指導会 5回目標 → **8回実施**

予定では5回だったが、コロナ対策に配慮して増加

更新者数 100名目標 → **143名更新認定**



エコファーマー計画申請
相談会の様子

(2) 生産拡大の推進

活動経過

露地ナス新規講座 目標 4回/年

➡ 生育ステージに合わせた講習会

集合研修 4月21日 18名、6月18日 17名、7月16日 18名

資料配付 9月6日 26名(コロナ増加のため)

露地ナス生産者掘り起こし➡JAだより特集記事 7,000部

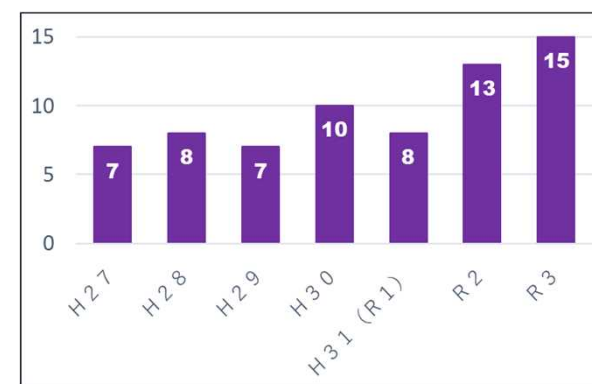
結果

【新規栽培者数】

露地ナス 目標5戸 → 実績15名

なぜ露地ナスなのか？

- ① 経費が少ない
- ② 収益性が高い
- ③ 先輩生産者が多い
- ④ 栽培マニュアルがある
- ⑤ 補助事業などの支援



(2) 生産拡大の推進

活動経過

半促成ナス新規講座	目標	3回/年
集合研修	6月29日	12名
	2月21日	9名
	3月23日	7名

結果

【新規栽培者数】

半促成ナス 目標3戸 → **実績7戸**

ハウス栽培ステップアップ



半促成ナス新規講座の様子

初期投資の少ない
「露地ナス」で技術習得！
さらに経営安定が望める
「ハウス栽培」へ誘導



(3) 新たな生産技術等を活用した収量・品質向上対策

【選果場利用組合支援】

活動経過

- ・ **講習会等** 資料配付（ナス2回、キュウリ2回）
 講習会4回（トマト3回、ナス1回）
- ・ **タブレットを活用した巡回指導** 31回
 巡回指導会等の際に携帯し、リアルタイムで情報提供



選果場講習会の様子



タブレットを活用した指導の様子

(3) 新たな生産技術等を活用した収量・品質向上対策

【収量品質向上対策】

活動経過

- ・ **単為結果性ナス実証ほ、研修会（新品種）**

現地研修会 4月23日,26日及び令和4年3月30日

講習会 12月7日

- ・ **キュウリ収量向上勉強会 2回**

個別相談会 1月20日,2月4日

単為結果性ナスとは？

通常、ハウスでナスを作ると着果させるためホルモン剤や訪花昆虫（ハチ）が必要です

単為結果性は交配作業が必要のない新しい性質を有した品種です



単為結果性ナス現地研修会の様子



キュウリ勉強会

(3) 新たな生産技術等を活用した収量・品質向上対策

【病害虫対策】

活動経過

- ・ 品種の変更、異常気象条件下でベテラン生産者も経験のない病害虫の発生

➡ 病害虫の周知、早期対策のため情報提供 7回

- ・ タバコカスミカメ実証ほ (H31~R3試験)



キュウリ つる枯病



トマト 立枯病



土着天敵 タバコカスミカメ

(3) 新たな生産技術等を活用した収量・品質向上対策

結果

・ 選果場取り扱い量

目標 8,210 t → **8,196 t**

・ 単為結果性ナスA品率^{※1}

目標 87% → **90%**

※1 管内で先行して導入されていた「あのみのもり2号」との比較

・ タバコカスミカメの結果^{※2} 全国の研究会で報告

天敵製剤（スワルスキー等）では安定効果が発揮される一方、カスミカメの定着・増殖が不安定で防除効果が発揮されない年もあった。



天敵製剤との併用が望ましい

※2 現在カスミカメは天敵製剤として販売されている。

5. 到達目標に対する取組実績

目 標	R2 現状	R3 目標	R3 実績
産地ビジョンの改訂	3※	1	1
なすきゅうり選果場利用者数（人）	289	291	307
選果場(3品目) 取扱量(t)	8,180	8,210	8,196

※ 「3」はナス・キュウリ・トマトの産地ビジョンのこと、毎年1品目ずつ改訂する計画である

〈目標達成の考察〉

- ・ プロジェクト会議等を実施することで、時代にあった「産地ビジョン」に改訂することができた
- ・ 選果場利用者の掘り起こし、露地ナス生産者の増加等で選果場の利用者が増えた(+16名)
- ・ 取扱い量が目標に達しなかった原因(-14 t)
 - ① トマト栽培面積の減少
 - ② 単価安のため、作型を早めに切り上げた など

6. 残された課題と今後の対応

(1) 計画的な産地展開

- ・産地ビジョンの改訂 令和4年度トマト、令和5年度キュウリ
- ・みどりの食料システム法を念頭においた支援

(2) 生産拡大の推進と担い手育成

- ・入門編の露地ナス新規講座の継続
- ・ハウス栽培へのステップアップに向けた講座（半促性ナス、抑制キュウリ）の開催
- ・空きハウスのデータベース化構築

(3) 新たな生産技術等を活用した収量・品質向上対策

- ・新技術及び新品種の推進
- ・新たな病害虫への対応

最終目的は
選果場を核にした「野菜産地の強化」

